

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3071500296		
法人名	有限会社プライムタイム		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地 (電話番号)	和歌山県有田市箕島22-1		(電話) 0737-83-5833

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成 19年 10月 23日		

【情報提供票より】(19年9月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月 2日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 4人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独		新築/改築	
建物構造	鉄骨陸屋根 造り			
	5 階建ての		4 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円		その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)		有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円	
	夕食	400 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(9月24日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	2 名		要介護2	6 名		
要介護3	0 名		要介護4	1 名		
要介護5	0 名		要支援2	0 名		
年齢	平均	84 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高見クリニック、石井内科、栗原整形外科、大中歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに商店街、小学校があり児童の歓声やチャイムの音がよく聞こえ居心地のよい雰囲気である。5階建ての4階部分であるが、グループホーム専用の玄関には手作りの表札が掲げられている等、家庭的な雰囲気となっている。エレベーター内に椅子が置かれいたり、居室や居間についても工夫が凝らされている等、管理者・職員の暖かい心配りが感じられ真摯な姿勢が窺える。職員は利用者の笑顔を励みとしていて、利用者のその人らしい生活の継続を重視し生活圏を広げるため、地域の協力を得て利用者一人での外出が可能となるよう取り組みを始めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の改善課題であった市町村との関わり・地域の人達との交流の促進については、運営推進会議において協力体制を構築し着実に改善されつつあり、その前向きな取り組み姿勢が評価できる。又、入居者のペースの尊重についても充分に対応されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員共に取り組みを見直す好機と捉えており、職員一人ひとりが自己評価を実施し管理者がそれをまとめ上げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの状況や身体拘束排除の取り組み等について説明したり、避難訓練や利用者のニーズに沿ったボランティアの受け入れ等について相談し検討して貰っている。又、外部評価・自己評価についても報告し、検討をおこなっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご意見箱を設置したり、ご家族がホームに来られた時に積極的に意見聴取に努めている。毎月一人ひとりについて作成している報告書に加えて今後ホーム便りの発行も検討されている。運営推進会議に家族代表が出席されており、意見等出して貰っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として清掃等の行事には積極的に参加し、季節の催しにも出かけている。小学校の運動会に招待されたり、近くの商店街では顔馴染みの関係が出来ており、声を掛けて貰ったり立ち寄り寄って貰ったりしている。又、ボランティアとして様々な地域の方の協力が得られている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしく和やかに楽しい生活が送れるように事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有できるように、目につく所に掲げており、業務の中に取り組もうと努力している。	○	地域密着型サービスとしての理念について、全ての職員に周知徹底し、日々の業務の中でその実践に取り組める様、話し合いの機会を多く持たれることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として清掃等の行事に参加し、盆踊り大会・秋祭り等の催しにも参加している。また、小学校の運動会にも招待して貰っている。近くに商店街があり買い物や散歩等で顔馴染みになっており、声をかけてくれたり立ち寄ってくれる事がある他、ギターの得意な方や将棋の好きな方が出向いてきてくれる事もよくある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義は管理者・職員共に理解しており、改善に向けた取り組みも積極的になされている。今回の自己評価についても見直しの好機と捉えて独自の評価票を作成した上で、職員一人ひとりが自己評価を実施し管理者がそれをまとめ上げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、サービスの実際や身体拘束等排除の取り組みについて説明、避難訓練の協力体制や利用者のニーズに沿ったボランティアの受け入れ等についても検討して貰っている。又、評価への取り組み状況等についても報告し話し合っており、地域・行政等より積極的な協力が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも市担当者や地域包括支援センター職員とは連携を図っており、不明な点についての相談や研修等の情報提供などをおこなっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月個々の報告書を作成しており、暮らしぶりや健康状態などを写真と共に手渡して報告している。今後、ホーム全体の取り組み等お知らせ出来るよう便りの発行も検討している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置し、面会時等にも聞き出せる様に努力している。運営推進会議には3名の家族代表が出席されており、意見等出して貰っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は最小限に抑えているが、異動があった時は利用者への言葉掛けに気をつけ寂しい思いをしない様配慮している。又、新入職員については、昼間の勤務で馴染みの関係が築けた事を確認した上で夜勤に就く等、十分に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修等段階に応じた研修が受けられる様配慮されており、研修後のレポート提出や伝達研修等によりフィードバックされ全員のレベルアップが図れるシステムになっている。又、月1回の内部研修も計画的に実施しており、積極的に職員の育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会には管理者・職員共に参加しており同業者との交流の機会となっている。又、最近周辺地域に新設したグループホームについては、情報提供と共に職員の実習も引き受けサポートしており、今後も交流の機会を設けていく予定がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学して貰う事から始めて、その場に少しでも馴染んで貰える様、出来るだけ自宅に近い環境に整える等、雰囲気づくりにも工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴を知る中で、その得意分野において力を発揮して貰える様取り組んでおり、魚のさばき方や包丁の研ぎ方に詳しい方、地元の昔馴染みの料理が得意な方等、日々共に過ごしながらか職員が学んでいる場面も多く、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞き出せる様、ゆっくりと十分に時間をかけて会話し、把握に努めている。センター方式のアセスメントを取り入れ、一人の利用者について3人の職員がそれぞれのシートを作成している。一言の言葉を大切に、表情からも汲み取る等、職員の観察能力を高める機会にもなっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の記録の中に「カンファレンス提案」の欄が設けてあり職員のアイデアや意見が出しやすいシステムとなっている。出された意見は月1回及び必要時開催している会議の中で十分に討議されている。又、計画作成にあたっては、本人・家族・関係者等の意見も十分に聴取し把握し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング・カンファレンスにおいて確認し、見直している。又、利用者の心身等状況に変化が生じた場合は必要に応じ、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により、24時間利用者の医療・健康面の支援体制が整えられている。又、日帰り旅行・温泉・外食・墓参等特別な外出支援・通院の介助等の支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する利用者のかかりつけ医との連携を図っており、定期的な受診・往診等適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医との間では、利用者の今後の変化についての検討や相談は行っているが、方針等具体的な部分については、文書化には至っておらず、話し合いについても充分に行えていない。	○	重度化した時の対応について、ホームとしての看取り介護の方針を作成し、出来るだけ早い段階から家族や主治医と話し合いを持ち、全員で方針を共有できる体制づくりに努められるよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳については、カンファレンスや研修会の中でも繰り返し指導されており、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言動は見られない。記録等個人情報の取り扱いについても管理を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々の業務を優先させず、利用者一人ひとりのペースや希望に沿って生活出来る様支援している。今後は、さらに一人ひとりに、その人らしく過ごして貰える様、地域の方々の協力を得て利用者の行動範囲を広げる取り組みが始められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じフロアの中で床に座って食事をする人・ソファでミニテーブルを使用する人・キッチンのテーブルで食事をする人等好みに合わせ様々であるが、和やかな食事風景となっている。駐車場を利用してバーベキューを楽しんだり、買い物や調理についても利用者と職員と一緒に楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は出来る限り利用者それぞれの希望に沿った時間に併せて行っており、ゆっくりしたペースで楽しんで貰える様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や能力・好みを活かして貰える様、園芸や野菜づくり・ボタン付けや雑巾作り等の針仕事、包丁研ぎ・魚さばき等行って貰っており、職員は喜びを共にしながらそれを支援している。又、友人・知人との交流が継続出来る様、電話や葉書での便り等、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	小学校がすぐ近くにあるので、運動会の練習等よく見に行っている。又、散歩や買い物、喫茶や外食・ドライブ等日常的に出かけられる様支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけることの閉塞感を管理者・職員共に理解しており、鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	所轄消防署の協力により、法人内他サービス事業所と合同で年1回避難訓練を行っている。又、災害時の職員の分担も決めており、マニュアルも整備されている。	○	運営推進会議の中で避難訓練についての協力が得られ、実施出来たとの事であるが、さらに災害時に地域の人々の協力が得られる様働きかけを行うと共に、夜間体制を想定した避難訓練を実施し、職員が利用者の避難を確実に支援出来る様さらなる対策を講じる事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量は記録の上でも確認し一人ひとりの状態等に応じて支援している。又、栄養バランスについては近隣の公立病院の管理栄養士に見て貰ってアドバイスを受けている。便秘解消の為、食物繊維を摂取出来る様に様々な工夫がなされており、職員の努力が窺える。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	集いの場となっている居間は家庭的な雰囲気である。廊下の一角にも一休み出来るベンチ等が配置されている。又、エレベーターの中にも椅子が置かれてあり、ホームとしての心配りが窺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には手作りの表札が掛けられており、一人ひとりの個性が窺える。又、居心地良く過ごせる様畳敷きにしたり、人形・花・ホームで作成した写真入りカレンダー等が飾ってある等、一人ひとりに合った工夫がされている。		